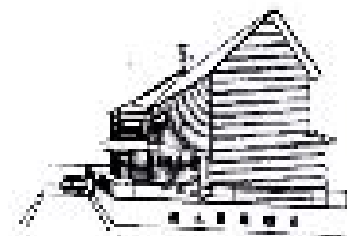


<今朝の聖書から> “これらの小さなもの(18:10)’という言葉を知ると、すぐに私達は教会のことを思い出します。マタイは福音書を教会の為に記録しているのですから、間違いはないでしょう。教会の大きな力にならない存在、子供や老人、大きな献金ができない人たちのことと考えてしまうようです。この様に理解してしまうところに、現在の教会が抱えている大きなもろさが見えます。牧師は、誰でも大きな夢を持ってそれぞれの働き場所に遣わされてゆきます。しかし、何かをしようとする時“先生やりたかったらどうぞ”と冷たい返事に出会います。提案も“誰かがしたらいいんじゃないの”という姿勢です。全ての牧師が今、だんだん、ビジョンが小さくなっていくことに悩んでいるでしょう。教団総会でこんな発言がありました。“無牧の方が、経済的負担がないので良い、という意見もある”というものです。複数牧会が当たり前になってくると思う時もあります。無牧・兼牧を経験した教会は、早く担当教師をと願って祈った事を思い出しましょう。“私を認めないような牧師の教会には行かない”とばかりに、抗議の印に教会から離れることもあるでしょう。“全く間違っている”と主は語っておられるのです、一人一人に対して天ではとりなしが今なされているのです。この世で基盤を置く教会だから仕方がない、と思う時には、私達の教団の教会で、一教会一牧師が守られていることに感謝をすべきです。このような感謝の祈りからは、牧師をマイナス思考に導く教会の姿は出てきません。18:12に“山に残して”とありますが、これは教会を示しています。17節に“彼らを見捨てなさい”とあります。びっくりするほど厳格な言葉です。そして、この人々も“失われている一人”なのです。先に記してあるとおり、天のとりなしはあるのです。加えて大切な教えはこうです。何を言おうと思おうと、天には筒抜けだということです。“ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中におられる”とあります。信仰者は、そうだと思うでしょう。これこそ大いなる力であると同時に、その反対の場合もあります。“一人じゃないよ”と語りかけてくださる主に、いま答えましょう。改革者たちも、ウェスリも、当時の教会が“どのように彼らを扱うべきか”と考えた時、“私には聖書があるので、それで十分”とは一言も言いませんでした。とことん教会を大切にしました。“悩みの日にわたしを呼べ(詩50:15)”とあるからです。それとも果てしない悩みの中に毎日を生きますか？

# 週報

2009年 9月 13日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)